宝石学会（日本）ニュースレター

第 10 号　2017 年 2 月

宝石学会（日本）今年の活動計画

2017 年も始まって早くも 2 ヵ月が経とうとしています。本学会の幹事は 1 月に幹事会を開き、今年の講演会・総会の具体的な準備を始めるとともに、今年の活動について相談しました。

講演会・総会は、下に記載のように、早稲田大学で開催します。会場の都合で、例年とは異なり、一般講演会・総会は 2 日目に行うことにしました。お間違えないようお願いします。1 日目には見学会と特別講演会を行ないますが、午後遅く開始としたので、遠距離の方の到着も無理がないかと思っています。是非とも多数のご参加をお願いします。

また、秋には、シンポジウムも企画しています。それに加え、今年は少人数での勉強会も実施してはどうか、など考えています。会員の顔が見える形での交流の場になることを期待しています。このような小規模な交流の場を首都圏に限らず、関西、九州など各地で開くことができればすばらしいことだと思います。

それから、ニュースレターの定期発行、学会誌の発行も途切れないよう継続していきたいので、皆様の投稿をぜひお願いします。（神田久生）

平成 29 年度　宝石学会（日本）講演会・見学会のお知らせ

【見学会および特別講演】（予定）

日時：6 月 10 日（土）15：00～18：30

場所：早稲田大学

見学先：早稲田大学内など

特別講演：「真珠」（予定）

講　師：小松博氏（真珠科学研究所）、山田篤美氏（作家）

【一般講演・総会・懇親会】

日時：6 月 11 日（日）9：30～19：00（予定）

会場：早稲田大学

※例年と見学会・特別講演、総会・一般講演会の日程が異なる点に気を付けてください。

※詳しくは後日、郵便で案内を送りますが、適宜、ＨＰでも内容を更新しますので、チェックをお願いします。

「一般講演申込案内」

一般講演の発表を希望される方は、宝石学会(日本)ホームページ(http://www.gakkai.ac/gsj/)から「宝石学会(日本)年会一般講演申込み書式」のテンプレートをダウンロードし(http://www.gakkai.ac/gsj/?action=common_download_main&upload_id=3379)、案内に従って作成をお願いします。なお、プログラムに掲載するため B5 版で作成してください。

提出は 5 月 8 日(月)までに電子メールで庶務担当幹事江森(emori@cgl.co.jp)までお送りください。

尚、当学会では毎年の学会発表要旨を電子化し、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」のホームページ上で公開しております。要旨を提出される際には**必ず英文のタイトルと抄訳をご記入ください。**（幹事一同）

東京海洋大学「マリンサイエンスミュージアム」見学報告

真珠を見ることができるミュージアムで、JR 品川駅の東側、東京海洋大学キャンパスの中にある。

東京海洋大学は、東京水産大学と東京商船大学が統合してできたという経緯で、キャンパスは 2 か所にある。品川の方は元水産大学のほうなので、ミュージアムには漁業関係の展示物があった。2 階にある展示場には、アザラシ、イグアナなどのはく製から、漁具、海鷹丸という調査船模型まで広範囲の品が展示されていた。

宝石関係者にもっとも縁の深い真珠は、幅 2mのケースに展示されているだけであったが、アワビやハマグリなど様々な貝から採取された真珠があり興味深かった。標本のラベルには「マルドブカヒ」や「ホタテガヒ」というような表記があり、歴史を感じた。

私にとっておもしろかったのは、たくさんの貝であった。大小さまざまな貝が陳列され、１メートル近いサイズのシャコガイは迫力あった。中でも目をひいたのは、シロチョウガイ、マベで、名前だけは聞いたことがあったが、本物を見るのは初めて、虹色の干渉色が美しかった。

また、第一次南極調査（昭和 32 年）で、観測船「宗

谷」が氷海から脱出が困難になったときの手紙など貴重な資料も展示されており、子供の頃聞いたニュースを思い出した。
ここは、こじんまりとしながら、楽しめるミュージアムであり、無料で見学できるが、土日が閉館なのが残念である。（神田久生）

「マリンサイエンスミュージアム」展示場

展示の真珠の一部

「翡翠原石館」見学報告

昨年、翡翠が日本の国石に決まったことが前号の本ニュースレターで報告されたが、この国石についてのテレビのニュースで「翡翠原石館」というミュージアムが紹介された。それで、このことが私の記憶の隅に残っていた。先日、近くに行く機会があったので、見学に立ち寄った。

場所は、品川駅近くの閑静な住宅地でミャンマー大使館の傍にあった。翡翠産地で有名なミャンマーと何かの因縁があるかもしれない。ミュージアムは一戸建て住宅程度の大きさで近づいて看板を見ないと気づかないほどの目立たない建物であった。

しかし、中に入ると正面に巨大な翡翠原石と石のピースを貼り付けたモザイク画が目に飛び込み圧倒された。建物内部には様々な美しい翡翠標本が所狭しと配置され、テーブルも翡翠でできており、翡翠尽くしである。それだけで十分翡翠標本を楽しめるが、圧巻は、翡翠の巨石をくりぬいて作った風呂であった。ぜいたくの極である。ほかに販売用アクセサリーを展示した部屋もあり、都心で翡翠を満喫できる意外な空間で何度も足を運びたくなるところである。（神田久生）

翡翠原石館の全景

巨大翡翠原石とモザイク壁画

翡翠の風呂

2 階展示場

産業技術総合研究所　地質標本館　見学報告

昨年、日本地質学会において県の石が選定されたことも、本ニュースレターの前号で紹介したが、これらの特別展示が、つくば市にある地質標本館（産業技術総合研究所）行われていることを知り、見学した。自宅が標本館から 1km の近距離にあるため、思い立って行ったわけである。

特別展示は入口を入った突き当りのロビーに、説明パネルとともに標本が陳列されていた。国石はひすい 1 種類であるが、それに対して、県の石は、岩石、鉱物、化石の 3 種類が、各都道府県ごとに定められたもので、47 県 x 3 で、合計　141 種類である。これだけ多種類はこのロビーには入りきらないので、そばの常設展示場にあるものは、そちらのほうに展示されていた。しかし、さすがの標本館も全種類はカバーしきれていなかった。岩石はすべてカバーされていたが、鉱物は 4 種類が欠けており、化石は約半数の展示であった。

花崗岩のようにありふれた石でも、県の石とラベルが貼ってあると注目して見てしまうので、このように指定することは意義あることかもしれない。指定された理由を知ると地球科学にも地域文化にも関心が強くなるだろう。

私の地元の茨城県の鉱物はリチア電気石で、展示物は淡い黄色の柱状結晶であった。なかなか美しく県の石として誇らしかった。一方、茨城県の岩石は花崗岩であり、こちらはあまりにもポピュラーなので自慢するには今一つというところである。花崗岩はほかに広島県や岡山県の石であった。

特別展は 2 月 26 日まででであったが、常設展示場にもたくさんの県の石があるので、見学の機会があれば、県の石に注目して見学するのも楽しいと思われる。

なお、県の石とは別に、常設展示には、宝石のケースや「青柳鉱物標本」(https://www.gsj.jp/researches/openfile/openfile2008/panfu-000.html)のケースもあり、美しい標本をたっぷり楽しむことができる。　（神田久生）

県の石の特別展示ゾーン

岩石・鉱物・化石の常設展示場

茨城県の鉱物

HRD アントワープ ダイヤモンドセミナー報告

去る 2017 年 1 月 25 日（水）、東京ビッグサイトにおける第 28 回国際宝飾展（IJT 28）の開催期間に合わせて HRD Antwerp と株式会社 AP の主催による『合成ダイヤモンド VS.天然ダイヤモンド』のセミナーが開催されました。昨今、メレサイズの合成ダイヤモンドは宝飾業界内における最大の懸案事項であり、まさに

時宜にかなった話題です。定員 100 名の会場が満員となる盛況ぶりでした。
このセミナーでは合成ダイヤモンドの製造技術に関する解説、HPHT 合成法と CVD 合成法のそれぞれの特徴、天然と合成ダイヤモンドの識別における最新のテクノロジーに関するプレゼンテーションが行われました。そして、メレサイズの合成ダイヤモンドのスクリーニング（粗選別）用に HRD で新たに開発され、バージョンアップされた M-SCREEN＋が紹介されました。
HRD（Hoge Raad voor Diamant）は、ベルギー・アントワープに本部を置く世界最大のダイヤモンド研究機関で、AWDC（アントワープ・ワールド・ダイヤモンド・センター）によって運営されています。世界で最も高い水準と信頼性をもつ鑑定機関の一つとして知られており、ダイヤモンド鑑別の分野において最先端の技術を有しています。また、世界ダイヤモンド取引所連盟（WFDB）および国際ダイヤモンド製造者協会（IDMA）の２大機関によって承認され、国際ダイヤモンド審議会（IDC）の基準に準拠している国際的研究機関でもあります。さらに HRD はダイヤモンドのグレーディングのみならず、教育、器材、研究の各部門を有しています。
今回の講師は Katrien De Corte 博士で、HRD アントワープのチーフエデュケーションオフィサーを勤められています。彼女は第一線の研究者であり、国際宝石学会(IGC)などでも研究発表をされています。また、世界各国で講演をされており、非常にわかりやすくプレゼンテーションを行っていただきました。

（北脇裕士）

開会の挨拶をされる株式会社 AP の伊藤拓也氏

講演を行う HRD　Antwerp の Dr. Katrien De Corte

宝石学会(日本)勉強会のお知らせ

下記の日程、場所で勉強会を行います。
日時：2017 年 4 月 14 日(金)18:30～20:30
場所：喫茶室ルノアールニュー秋葉原店マイスペース
定員：8 名(先着順)
参加費用：500 円
内容:「Be 拡散加熱処理コランダムについて(中央宝石研究所　江森健太郎)」Be 拡散加熱処理コランダムは出現してから 15 年以上経つ処理ですが、いまだ鑑別の現場では頻繁に遭遇する処理です。この処理について、現状、原理、鑑別について勉強します。なお、本勉強会においてレジュメ等の配布はありません。1 時間程度のプレゼンテーションの後、質疑応答、意見交換等を行う予定です。参加希望者は emori@cgl.co.jp までメールまたは事務局まで FAX(+81-(0)3-3834-7057)で連絡をお願いします。また参加受付は先着 8 名までとさせていただきます。

(江森健太郎)

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会（日本）ニュースレター（第 10 号）
2017 年 2 月　発行
編　集：神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮
発 行：宝石学会（日本）
〒110-0005
東京都台東区上野 3-20-8　小島ビル 6 階